

第7回ふれあい祭が開かれましたー1

総力を結集して国際色豊かな風景を演出しました

齊藤富男（事務局長）

ふれあい祭は、平成20年度に第1回目を開催してから今年度で第7回目を迎えます。このふれあい祭は、文化交流部会の主管による5部会の横断的事業として、全ての部会が関わる本協会の一大行事で、NIAの総力を結集して実施する事業となっております。

今回のふれあい祭は、10月に開催された第3回運営会議において、谷津干潟自然観察センターで平成27年1月17日（土）に開催することが決定しました。企画内容については、同日運営会議後に開催された第1回ふれあい祭実行委員会において、開催日が1月なので「世界の正月風景を演出する」となりました。

それ以来、「会員、市民及び在住外国人に対して多文化を発信する場と機会を設け、相互交流を深めると共に協会活動の周知と理解を図り、習志野市民の国際化の推進を目的とする」という趣旨に基づき、計6回の実行委員会で実施内容について協議をすすめてきました。

ふれあい祭当日、日本語教室部会により、「世界を知ろう」サポートプラン事業としてこれまでに開催した「鷺っこまつり」、「実花小文化祭」の企画内容を更にパワーアップした「世界の国からこんにちは」のイベントが、多くの日本語学習者、日本語ボランティアが参加して行われました。民族衣装を着て母国語での挨拶、国旗シール集めなど日本語教室部会のブースは途切れることのない観客を集めました。また広報青年部会と国際交流部会は、昨年の平成26年度タスカルーサ市青少年訪問団、習志野市青少年海外派遣団の交流記録のパネル展示や、レクチャールームでの派遣高校生による報告DVDの放映など、姉妹都市交流を積極的にPRしました。広報青年部会の青年部であるNI-Youthは、子供たちに対する凧作り教室、けん玉、国旗カルタなどを行い、遊びを通してNIAに対す



日本語教室部会のイベントコーナーで



展示で教室活動もアピール



吉原さんの大字揮毫



津田沼高校生のダブルダッチ

る関心と国際交流への理解をアピールすることができました。

当日は天気にも恵まれ、屋外において津田沼連合町会の全面的協力をいただいて「もちつき大会」を開催しました。前日の米とぎでは、国際交流部会員はじめ協会ボランティアが寒い中、30kgもの米を研いで準備してくださいました。今回のもちつきは当初、燃料はプロパンガスで実施する予定でしたが、日本の伝統的な「もちつき」を見せたいとの町会の方々の強い思い入れもあり、燃料は薪を使用し、臼も直接地面に置かず藁を下に敷くなど本格的なものとなりました。

屋外ステージでは、「袖ヶ浦連合町会 そでっ鼓連」による和太鼓演奏、獅子舞、津田沼高校によるダブルダッチがあり、さらに書道の大字(だいじ)揮毫(きごう)で吉原さんの「遊娯(ゆうご)」の書が壁面に飾られた時は、観客の皆さんから感嘆の声が上がりました。日本の伝統文化の良さ、深さを実感するとともに、海外から来た方々に対して日本文化を披露できたものと強く感じたひとときでした。

屋内ステージでは、習志野サークル連協による舞を始め、日本語学習者による楽器演奏、ダンス、太極拳演武、津軽三味線日本一の土生(はぶ)みさおさんによる津軽三味線演奏、神田外語大学の皆さんのベリーダンス、豊田(とよた)耕(こう)三(ぞう)さんによるアイリッシュフルート演奏が行われ、観客とステージが一体となる国際色豊かなステージとなりました。去年のふれあい祭をはるかに超える迫力に、観客からも惜しめない拍手がおくられました。

今回のふれあい祭は、NIAの各部会員をはじめ津田沼連合町会、谷津連合町会、袖ヶ浦連合町会等の各団体のご協力をいただくとともに、谷津干潟自然観察センターの皆さん方の惜しめない協力があり実現できたことであり、心より感謝するところです。これからも国際交流協会活動を円滑に進めるため、各団体・機関との連携を深めるとともに、国際交流協会会員の皆さん方のご理解とご協力が得られるよう事務局からも情報を発信してまいります。



メキシコのルイスさんと中国のキョウさんのもちつき



そでっ鼓連の和太鼓演奏



土生みさおさんの津軽三味線



ラウラさんのダンス



豊田耕三さんのアイリッシュフルート演奏